特集

美しい棚田の景色を守りゆく『せんがまち棚田倶楽部』

市民と議会をつなぐ特集ページです。
今回は、上倉沢で棚田の美しい景観と生態系を守り継ぐ、せんがまち棚田倶楽部のみなさんからお話を伺いました。

平成11年：静岡県「棚田等十選」に認定
平成22年：NPO法人「せんがまち棚田倶楽部」誕生
令和2年：「豊かな村づくり全国表彰事業」農林水産大臣賞受賞
令和4年：「つなぐ棚田遺産」として認定

NPO法人 せんがまち棚田倶楽部
理事長 山本 哲 氏(左)　事務局長 堀 延弘 氏(右)

〈活動を始められたきっかけは〉

私は元々、東京で仕事をしていましたが、ふるさとの原風景には棚田の景色がありました。しかし、当時の政府の減反政策がはじまると、棚田が荒れ始めました。

「ふるさとの棚田を保存しなければならない」という思いから、地元に戻り、平成6年に事業を始めました。長野県等、先進事例の視察に行き、年間15から16枚の棚田の復元作業を15年間行ってきました。

〈活動の内容は〉

棚田の一年は次の通りです。

一月　田打(たう)ち講
二月　冬水田んぼ
　　日本アカガエル産卵観察会
三月　田起し、オーナー説明会、
　　棚田キャンプ、あぜ道アート
四月　畦塗り、春の山菜採り
五月　代かき、田植え
七月　草刈り、和紅茶作り
八月　生き物教室
九月　スガイ作り
十月　稲刈り
十一月　茶草場体験
十二月　しめ縄作り

今年は田植えを4日間掛けて実施しました。参加者はオーナーさん他、常葉大学附属菊川中学生、鈴与株式会社「鈴与いいねプロジェクト」の皆さん、そしてグローカルデザインスクール㈱、ジュニアビレッジの皆さん等、600人を超える方に参加して頂きました。せんがまちに子供たちの歓声が響き、良い田植えとなりました。

他には、中国、韓国のテレビ局や、ケニア、ギニア、オーストラリア、アメリカのアリゾナ州など、海外からも取材や視察研修が多いです。

〈やりがいを感じた時は〉

参加しているお子さんたちが、楽しそうに田植えや、稲刈りをやっている姿を見るときにやりがいを感じます。

また、今年は60組のオーナーさんに来ていただいていますが、うち8割がリピーター、ほとんどが子育て世帯です。お子さんが、せんがまちでの体験を楽しんでくれると、リピーター獲得につながりやすいようです。

国内外から愛される、せんがまち棚田ならではの豊かな生態系と、美しい景観を誇りに思っています。